

参考文献

大塚一志 (1970) 日平均水面の変動からみた相模灘への黒潮分枝流の流入について. 水産海洋研究会報, 20, 1-12.
 木幡 孜 (1974) 定置網漁獲量からみた相模湾の漁況.

水産海洋研究会報, 25, 25-30.
 小金井正一 (1976 a) 漁況, 環境にかかわる沿岸海象調査法について. 水産海洋研究会報, 28, 1-6.
 小金井正一 (1976 b) 海の見方・考え方—地方水域の周辺—. 公害原論自主講座第9学期, 9-55.

5. シラスウナギの漁獲変動について

野中 忠, 中川征章 (静岡県水産試験場浜名湖分場)

シラスウナギの漁獲変動は, 基本となる漁獲資料がきわめて乏しいので, 検討事例が少ない。多少でもこの面での前進を望んで, 既往資料に若干の未発表資料を加えて取まとめた。

資料としては, 漁業・養殖業生産統計年報, 静岡農林水産統計年報, 滷業養魚木村隼氏資料, 静岡県水試黒潮流路資料および既往文献を用いた。

1. 全国の漁獲動向

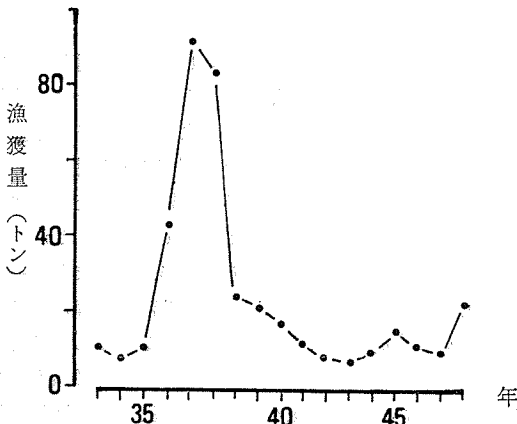
昭和33~49年の全国の漁獲動向は第1図のごとくで, 通常10~20トンであるが, 35~37年は異常に豊漁となっている。この年は茨城県のみが漁獲が多く他県は変化が少ないので疑問を残す。

全国と静岡県の漁獲を対比させると, 第2図のごとくで, 33~44年の間は静岡で全国の67%, 45年以降は30%をまかなっていることになる。45年は, それまでの生産増大期から一転して魚病発生による減産, 停滞期に入った年で, シラスウナギの流通と漁獲の上に変化が起ったと考えられる。

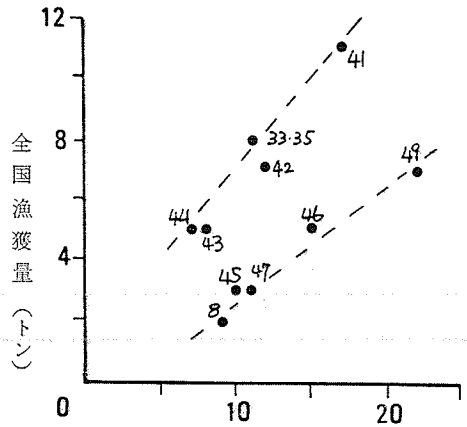
2. 静岡県の漁獲動向

静岡県内と浜名湖内の漁獲動向は第3図のごとくで,

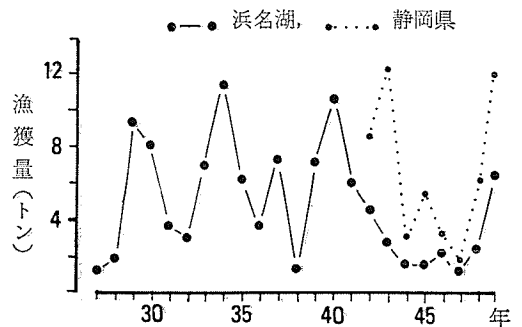
浜名湖は静岡県の漁獲の約 1/2 をまかなっていることになる。浜名湖では, 27~40年の間に3~6年の間隔で増減が繰返されているが, 41~48の間には46年にやや上昇があるのみで全体として不漁であった¹⁾²⁾。原因は不明であるが, この不漁期の継続が静岡県内の減産をまねいた。浜名湖と近い愛知県伊川津での漁獲記録³⁾と浜名湖の漁獲は第4図のごとく相関が認められ, 漁獲量はほぼ同じ傾向を示している。



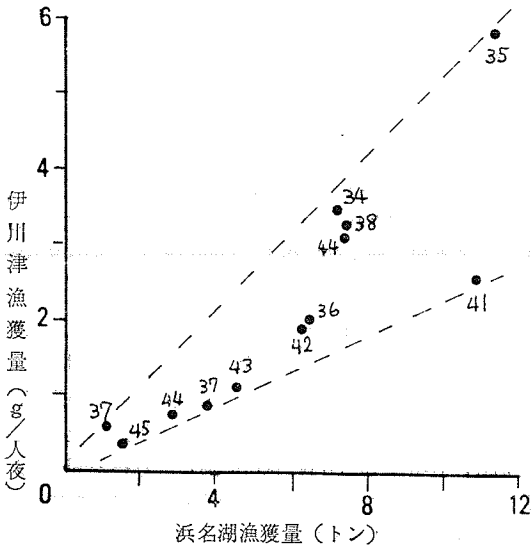
第1図 全国のシラスウナギ漁獲動向



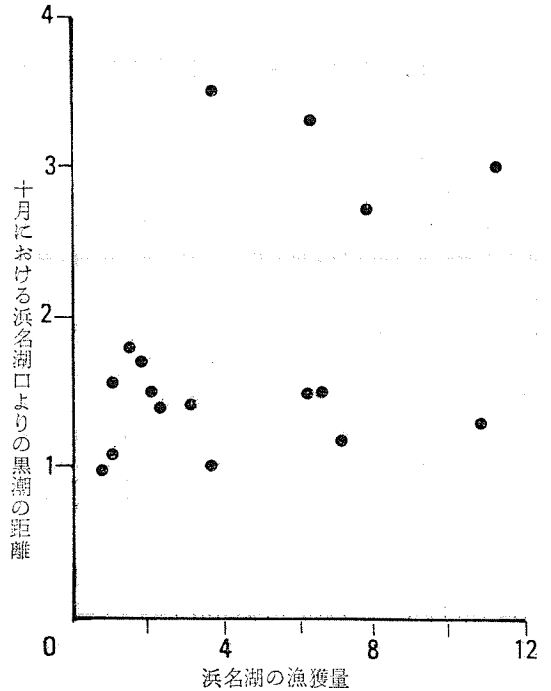
第2図 全国と静岡県の漁獲の関係



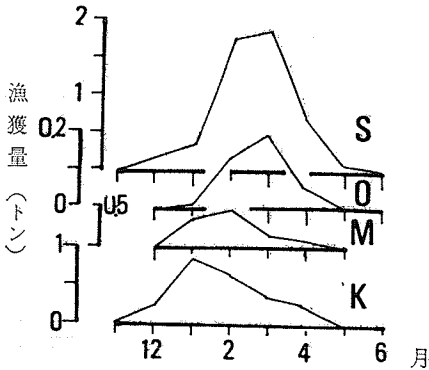
第3図 浜名湖と静岡県の漁獲動向



第4図 浜名湖、伊川津の漁獲の関係



第6図 黒潮までの距離と漁獲量の関係



第5図 シラスウナギ漁獲の移動

K: 鹿児島, M: 宮崎
O: 大分, S: 静岡

3. 漁場の移動

47年漁期における鹿児島、宮崎、大分、静岡各県の月別漁獲量は第5図のごとくで、南から北に向けての盛漁期の移動が明瞭である。49年度漁期に浜名湖内での月別漁獲についても、湖口より漁獲がはじまり、次第に湖奥部に向かって漁獲が移動している。これらのことはシラスウナギの補給の形を示していると見られる。

4. 黒潮流路と漁獲との関連

28年より37年の範囲で、浜名湖口の12月の水温とその漁期の漁獲量の間には正の相関があることが知られているが⁵⁾、その後の資料を加えると相関はみられない。前述のように4年以降の不漁に起因していると思われる。

シラスウナギの補給が黒潮と関連することが考えられ

る。31年以降の黒潮流路図により浜名湖口より黒潮流軸までの距離(緯度)を月毎にとり、10月における距離とその後の漁期間の浜名湖内の漁獲量の相関図は第6図のごとくで、明瞭な相関はない。同様に10~3月の合計距離との間にも相関はなく、漁獲の多寡は別の要因を考えなければならない。

以上、シラスウナギ漁獲に関する事例二、三を示したが、現在では漁期前にその漁況を予測することはできない。今後この面での研究が積み重ねられることが望まれる。

文 献

- 1) 角皆英明(1969) 養殖種苗としてのシラスウナギの需給とその漁獲変動. 静岡水試研報, 3号, 73-82.
- 2) 中川征章, 野中 忠(1976) 浜名湖におけるシラスウナギ漁獲についての二、三の知見. 静岡水試研報, 10号, 77-82.
- 3) 木村 隼(1976) 私信.
- 4) 各県水試(1973) 昭和47年度洄游性重要資源開発調査試験事業報告書. プリント.
- 5) 静岡水試浜名湖分場(1957) しらすうなぎの漁獲と水温. はまな, 17号, 2.